

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 9 月 29 日現在

機関番号：33704

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593420

研究課題名(和文) がんの子どもの復学支援プログラム構築のための基礎的研究

研究課題名(英文) Basic Research to Establish the School Re-Entry Support Program for Children with Cancer

研究代表者

大見 サキエ (OMI, SAKIE)

岐阜聖徳学園大学・教育学部・教授

研究者番号：40329826

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はがんの子どもの理解を促進するための啓発活動の継続と子ども向けおよび療者向けの復学支援ツールを作成することであった。啓発活動は毎年実施し、定着して実施できるようになった。一方、支援ツールとしてがんの子どもの母親の手記を翻訳出版、子ども向けとして絵本も作成した。また、医師・看護師への面接調査を実施し、復学支援のための基礎的資料が得られたので、これらを基に医療者向けツールを作成する予定である。

研究成果の概要(英文)：This research was conducted on the continuation of educational activities which promote the understanding of children with cancer and for developing tools for the school re-entry support program for children and for medical professionals. We have run these educational activities every year, so it has now become a regular activity. At the same time, as a support tool, the memoir of a mother with a child with cancer has been translated and published, and also made into a picture book for children. In addition, we conducted interview studies with physicians and nurses to obtain basic data for the school re-entry support program. We plan to develop tools for medical professionals based on this data.

研究分野：小児看護学

キーワード：復学支援 小児がん クラスメート 医療者 学校教員 支援ツール プログラム構築

## 1. 研究開始当初の背景

小児がんに関する教員への啓発のための研修会は、地元医療機関と連携したものは見受けられず、これまで筆者は継続して実施してきており、今後も定着に向け継続していく必要がある。がんの子どもについて説明の重要性は指摘されているが、明確な方法論やツールは見受けられない。さらに教員や医療者の支援体制も十分でないため、支援のためのツール作成の必要性がある。

## 2. 研究の目的

医療と学校が連携したがんの子どもへの復学支援プログラムを構築するための基礎的研究を行う

## 3. 研究の方法

1)小中学校の教員および特別支援教育担当コーディネーター対象の研修会を実施する。

2)退院する子どもと家族を支援するためにプレゼンテーション内容を検討し、ツール試案を作成する。

## 4. 研究成果

### 1) 啓発の研修会

(1)平成24年度 8月8日 養護教諭、小中学校の教諭13名の参加を得て、実施した。医師の説明、看護師長の説明、子どもと家族の理解と復学支援体制構築の必要性の説明、院内学級の見学等を実施し、その後、討論会を実施した。アンケートの結果は、いずれも参加して病気について、子どもや家族、病院での復学支援体制について理解を深めていた。実際、直面している転籍の問題等話し合うことができた。

(2)平成25年度 8月7日 午前：特別支援教育コーディネーター27名 午後：一般教員及び養護教諭12名の参加を得て研修会を実施した。いずれも学校と医療機関との連携の在りかた、実際担当して困った問題、特に

家族支援について話し合った。

なお、平成25年度までは研究代表者が教育委員会へ出向き、協力依頼するとともに、研修会参加の依頼文を作成し、病院側と調整し、参加者を募った。当日の運営は病院看護スタッフの協力をえて、会場の設定を実施。他の研究協力者も参加した。研修会后、簡単な無記名の各自郵送のアンケートを配布した。回収は特別支援コーディネーター19名、一般教員5名であった。各学校の校内支援体制を問う質問については、「少し整備されている」6名、「あまり整備されていない」6名、「ほとんど整備されていない」7名であり、特別支援コーディネーター配置されても十分ではないことが明らかとなった。実際対応に困っている教員もいた。小児がんについての知識は少なく、治癒率の高さについては認識を新たにしていた。慢性疾患の子どもへの復学支援の必要性や医療機関との連携のシステムについては理解が促進された。医療機関と学校との連携体制を理解し、今後活用したいとの意見が多かった。また、院内学級の見学を含めた研修会は有意義であったと一定の効果が見られた。ただ、参加者が少ないこと、他の疾患も知りたいとの要望もあり、次年度から対象疾患を慢性疾患全般にすることを検討した。

(3)平成26年度 8月8日(金)8名参加。一般の教員を対象に病院の看護部主体で開催し、がんだけに特化せず、慢性疾患全般を扱い、復学支援のシステムについて講演実施、その後討論会実施。

2)NYから持ち帰ったがん子どもの入院中の生活や在宅の様子、復学支援された様子等について書かれた母親の手記を翻訳出版した。これは今後診断時の家族や周囲の人々の理解に役立つと考える。研究会等でPRし、販売した費用はがんの子どもを守る会に寄付した。

3)平成26年8月10日 第21回日本家族看

護学会学術集会でテーマセッションを開催。

「慢性疾患の子どもとその家族を支える復学支援」と題して、大見、高橋（医療機関勤務看護師）の発表をした後、会場の参加者との意見交換を実施した。ここでは、大見は復学支援の重要性、現状の問題点、今後の課題を発表。高橋は所属機関の小児医療センターの復学支援システムの紹介、手続き書類等を紹介し、復学支援を実施した後の効果の検討を課題として挙げた。さらに今後各医療機関等で復学支援システム化のために必要な内容を紹介した。会場では愛知県でこのような教員の研修会を10年も実施しているとは思わなかった、身近にあるということを知った。という意見が寄せられた。また学籍移動時の手続き、保護者との関係づくり等質問があった。30名の参加であった。

終了後、会場で小児がんの母親の手記（「アリシア-がんを克服した母娘からのメッセージ-」寄付のため翻訳本の販売）、復学支援小冊子、復学支援手続き資料を希望者に配布した。

#### 4) 患児の理解促進および復学支援のためのツール案検討

(1) 医療者向け支援ツール作成のための現状把握を目的に、復学支援が円滑に進められている医療機関の看護師、医師（一部他の職種も含む）を対象とした面接調査を実施した。医師4名、看護師4名でそれぞれにデータを整理した。その結果、どの施設も医師の入院時教育の説明をして本人・家族の理解のもと、院内学級等の案内、システムを説明し、復学への道筋が整備されていた。退院時の学校教員と医療機関の多職種連携の会議を実施し、復学へと進めていた。従って、これらの手続き、医師・看護師の活動が有効な医療者向け復学支援ツール作成に活用できると考えられた。これらの内容は、平成26年11月の日本小児がん看護学会で2件に分けて発表した。

#### 5) 子ども向け、クラスメート向け、復学支援ツール作成

NYから持ち帰った復学支援の絵本を参考に日本人向けにストーリーを考え、作成に着手した。絵本として作成するため、小学2年生を主人公にしてストーリーを構築。子どもの悲しい入院体験が周囲の子ども達や離れても地元校の子どもや担任の見舞いなどにより、つながっている、帰った時に元のように迎え入れてくれるという内容にした。絵本作成には絵本作家、印刷会社とのうち合わせ等あり、主に打ち合わせ等の旅費や作画料の一部を科研費で支払った。絵本は平成27年3月末に完成し、心温まる絵本に仕上がった（「おかえり！、めいちゃん-白血病の子どもが学校に戻る-」。ただ、絵本の完成が3月末であったため、まだ、説明効果の検討までには至っていない。

#### 6) 教職を目指す大学4年生の特別に配慮の必要な子どもへの対応に関する意識調査（アンケート実施）

がんの子どもを初めとする長期療養児の入院中や復学時の対応について、調査を実施し、データを整理して学会発表（平成27年6月）した。配布376名、回収200名。

病弱児に対して病気を理解し、学校やクラスメートとの繋がり維持、保護者や他教員と情報共有し支援するという基本的な対応の認識は高かったが、その一方で不安もみられ、対応に困惑することが明らかとなった。さらに特別支援教育の言葉を認知しない学生の存在や特別支援教育の対象であるという認知は半数であり、病弱児の対応に関する学習の必要性が示唆された。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 6 件)

加藤千明・大見サキエ：小児がんに罹患した  
こどもの復学を担任教員が支援していくブ  
ロセス - 院内調整会議後の学校生活適応ブ  
ロセス -、日本小児看護学会誌、(査読あり)、  
第 21 号第 2 巻、2012、p17-24、

加藤千明・大見サキエ：がんに罹患した学童  
期の子どもに対する担任教員の復学支援-退  
院時院内調整会議から復学前日までの担任  
教員の思いと支援を検討した 2 事例-、椛山女  
学園大学看護学研究、(査読あり)、第 4 巻、  
2012、p11-21.

大見サキエ・石川菜美：小児がん患児の復学  
支援ツールの開発-試作パンフレットによる  
小学生への説明効果の検討-、天理医療大学紀  
要、(査読あり)、第 1 巻第 1 号、2012、p23-32  
)

大見サキエ・坪見利香・岡田周一・本郷輝明・  
河合洋子・金城やす子・宮城島恭子・鈴木恵  
理子・濱中喜代：全国調査にみるがんの子ど  
もの教育支援に関する医師の取り組みの現  
状 - 家族・看護師・学校教員との連携を中心  
に -、日本血液・がん学会雑誌、(査読あり)、  
第 50 号、第 4 巻、2013、p598-606 .

大見サキエ・河合洋子：小学校教員のがんの  
子どもの復学支援-一般教員、院内学級教員、  
養護教諭の面接調査-、医学と生物学、(査読  
あり)、第 157 巻、第 6 号、2014、p726-731、

大見サキエ・宮城島恭子：化学療法を受ける  
患者の社会復帰と関連領域との連携、小児看  
護、(査読なし)、へるす出版、第 37 巻 13 号、  
2014、p1703-1708、

〔学会発表〕(計 6 件)

大見サキエ・宮城島恭子・坪見利香：復学  
支援した小児がん患児の母親の退院前後の  
思い - 学校訪問し教員に説明した事例 -、第  
14 回日本看護医療学会学術集会、2012

大見サキエ・河合洋子：がんの子どもの復学  
支援-多職種連携調整会議後、退院した一事例

の母親の心理-、第 33 回日本看護科学学会学  
術集会、2013

大見サキエ・高橋由美子・足立里美・森口清  
美・河合洋子：担当クラスに特別に配慮の必  
要な子どもが在籍した場合の対応に関する  
認識(1)-教育学部学校心理専修課程 4 年生の  
場合-、日本看護研究学会第 18 回東海地方会  
学術集会、2014

高橋由美子、大見サキエ、足立里美、森口清  
美、河合洋子：担当クラスに特別に配慮の必  
要な子どもが在籍した場合の対応に関する  
認識(2)-教育学部保育専修課程 4 年生の場合-、  
日本看護研究学会第 18 回東海地方会学術集  
会、2014

大見サキエ、宮城島恭子、森口清美、畑中め  
ぐみ：教育支援に関する医師の小児がん患  
児・家族への説明、第 12 回日本小児がん看  
護学会学術集会、2014

森口清美、大見サキエ、宮城島恭子、畑中め  
ぐみ：教育支援に関する看護師の小児がん患  
児・家族への説明、第 12 回日本小児がん看  
護学会学術集会、2014

〔図書〕(計 2 件)

ルネ・フェスラー著、大見サキエ・河合洋子  
監訳：アリシア - がんを克服した母娘からの  
メッセージ -、幻冬舎ルネッサンス、B5 版  
全 269 項、2013

大見サキエ・森口清美・復学支援プロジェク  
トチーム作：おかえり！めいちゃん、ふくろ  
う出版、A4 全 32 項、2014

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

特に無し

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

大見サキ工 ( SAKIE、 OMI )  
岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授  
研究者番号 : 40329826

### (2)研究分担者

河合洋子 ( YOKO、 KAWAI )  
宝塚大学 看護学部 教授  
研究者番号 : 10249344

### (3)連携研究者

森口清美 ( KIYOMI、 MORIGUCHI )  
川崎医療福祉大学 医療福祉学部  
研究者番号 : 80279356

### ( 4 ) 連携研究者

宮城島恭子 ( KYOKO、 MIYAGISHIMA )  
浜松医科大学 医学部 看護学科  
研究者番号 : 60345832

### ( 5 ) 連携研究者

平賀健太郎 ( KENTARO、 HIRAGA )  
大阪教育大学 特別支援教育  
研究者番号 : 30379325

### ( 6 ) 連携研究者

堀部敬三 ( KEIZO、 HORIBE )  
名古屋医療センター臨床研究センター  
研究者番号 : 30209308

### ( 7 ) 連携研究者

金城やす子 ( YASUKO 、 KINJO )  
名城大学健康科学部  
研究者番号 : 90369546

### ( 8 ) 連携研究者

高橋由美子 ( YUMIKO 、 TAKAHASHIM )  
岐阜聖徳学園大学 教育学部  
研究者番号 : 80728147

### (9)連携研究者

谷口恵美子 ( EMIKO、 TANIGUCHI )  
岐阜県立看護大学  
研究者番号 : 20320939

### (10)連携研究者

畑中めぐみ ( MEGUMI、 HATANAKA )  
中部大学 保健看護学科  
研究者番号 : 90600875